4　基本目標　4　　家庭・地域の教育力の向上

重点施策１６　家庭教育支援体制の充実

現状と課題

家庭教育は，すべての教育の出発点であり，子供が基本的な生活習慣・生活能力，人に対する信頼感，豊かな情操，他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観，自立心や自制心，社会的なマナーなどを身に付ける上で重要な役割を担っています。しかし，少子高齢化，核家族化などにより，子供たちを取り巻く環境や生活様式が変化し，悩みや不安を抱えたりする状況が見られます。

こうした中，すべての親が家庭教育を安心して行えるよう，家庭教育の自立性を尊重しつつ，親の学びの機会や発達の段階に応じた子育てなどについての情報提供とともに家庭教育が困難な状況にある家庭に対して相談対応の充実を図るなど，地域社会が一体となって支援していく必要があります。

さらに，子供たちの健全な育成には，親が子供と過ごす時間を十分確保できる環境を作ることが必要です。

基本目標

施策指標	指標の定義 ・選定理由	目標値の根拠	現状値 (平成２７年度)	目標値 (平成３１年度)
全国学力・学習状況調査において，「家の人と学校での出来事について話をしている。」と，答えた児童生徒の数	子供の健全な育成は，一つに親と子供が共に時間を共有し，学校での出来事を話すことが重要で，親子の信頼関係や子供の成長を促すことにつながることから，この指標を選定した。	親子の関わりの時間を確保している割合は，児童は，現状維持とし，生徒は，全国平均以上を目標値とした。	小学校６年生 ９０．５％ 中学校３年生 ６８．７％	小学校６年生 現状値以上 中学校３年生 ７５％以上

施策の方向性

◇　家庭の教育力の向上を図るために，家庭教育に関する学習機会を広く設けて，社会全体で支援します。

◇　子育て家庭の保育環境や就労状況及び子育ての不安軽減など，幅広い保育ニーズに対応する多様な保育サービスや支援サービスの充実に取り組みます。

◇　仕事と子育ての両立に向けた支援体制確立に向けて取り組みます。

主な取組

◇　子育てやしつけなど家庭教育のあり方を見つめ直す機会となるよう，子育て支援事業を推進します。

◇　こども園を活用し，通常・時間外及び一時預かり保育，特別支援教育事業の提供体制を充実します。

◇　こども園を地域の子育ての拠点施設として位置付け，未就園児の親子を対象に地域子育て支援拠点事業を実施します。

◇　「家庭教育学級」などを開催し，家庭・地域の教育力の向上に努めます。

◇　子育て支援担当課と連携を図り，子育て支援の一本化が図れるよう協議を始めます。

◇　放課後児童クラブの運営により，子供たちの安全で健やかな居場所づくりを充実します。（福祉課）

◇　家庭教育の充実を図るため，学校から発信するプログラム・リーフレットや，千葉県家庭教育（子育て）応援サイト「親力アップ！いきいき子育て広場」，千葉県版親プロ「きずな」などの活用も図れるよう情報の提供に努めます。

◇　保護者からのさまざまな相談に応えられるよう場の設定を図ります。

重点施策１７　地域の教育力の向上

現状と課題

子供たちへの教育を地域の豊かなつながりの中で推進するためには，地域の教育力を学校に取り入れるとともに，地域コミュニティの拠点として学校が積極的に家庭や地域に働きかけることが重要です。

その取組により，家族の絆や地域の絆が深められ，学校の教育力も高められることが期待されます。

本町では，既に，学校支援地域本部を立ち上げ，様々な取組を始めています。学校のニーズと地域の力が融合し，大きな力となって活動を推進することが今後求められています。

また，国や県では，コミュニティスクール（学校運営協議会制度）を拡大することにより地域とともにある学校づくりを推進するよう求めています。本町においても，今後の検討課題として捉えています。

基本目標

施策指標	指標の定義 ・選定理由	目標値の根拠	現状値 (平成２７年度)	目標値 (平成３１年度)
全国学力・学習状況調査において，「今住んでいる地域の行事に参加している。」と，答えた児童生徒の数	家庭・学校・地域が共に児童生徒を育てていくという視点に立ち，地域の教育力の効果を高めることが必要となることから，この指標を選定した。	地域の大人とのコミュニケーションを図っているといえる児童・生徒の割合を，現状値以上を目標とした。	小学校６年生 ７３．５％ 中学校３年生 ６６．７％	小学校６年生 現状値以上 中学校３年生 現状値以上

施策の方向性

◇ 家庭・学校・地域が一体となった地域ぐるみの子育て支援体制の充実を図ります。

◇ ボランティアの活動の充実を図るとともに，放課後や週末などの教育支援活動を支援します。

◇ 地域による子供たちのための教育活動を支援します。

主な取組

◇ 睦沢町学校支援地域本部のもと，地域コーディネーターを中心に，「学習支援ボランティア」「防犯ボランティア」「読み聞かせボランティア」などの活動を通じて，学校における学習活動，安全確保，環境整備などのボランティアとして，保護者や地域住民の参加を一層促し，学校・家庭・地域が一体となった子供の育成を推進します。(再掲)

◇ 各種ボランティアの活動状況や人材確保の方策などを各学校に提供するとともに，講習会・実践事例発表会や情報交換会を開催し，活動の支援をします。

◇ 公民館や小学校の空き教室などを活用した，子供たちの安心・安全な居場所の整備と放課後や週末などに地域住民の参画を得た放課後子供教室（むつざわアフタースクール）の拡充を図ります。(再掲)

◇ 「学校を核とした１０００ヶ所ミニ集会」を開催し，保護者や地域住民が学校と一体となって企画・運営することにより，学校運営・地域交流の発展につなげます。

重点施策１８　学校・家庭・地域が一体となった教育の推進

現状と課題

子供たちの健全育成のためには，教育に対する関心と理解を一層深め，学校・家庭・地域の住民や地元企業・ＮＰＯなどと力を合わせて連携し，睦沢町民全体で教育に取り組む必要があります。

学校支援地域本部の事業等の活動を支援し，一層の充実を図ることが重要です。

また，地域の連帯感が薄れ，青少年の非行に対する地域の抑止力が低下しています。「人間力」育成のためにも，青少年相談員を始めとする青少年と地域との絆を強くするための取組や各種青少年団体の活性化を支援します。

基本目標

施策指標	指標の定義 ・選定理由	目標値の根拠	現状値 （平成２７年度）	目標値 （平成３１年度）
ボランティアの年間活動人数	学校支援として活動する各種ボランティアの活動延べ人数。 小中学校で，ボランティアとして登録している地域住民が活発に活動することが，学校・家庭・地域の教育力の向上につながることから，この指数を選定した。	年間の授業日数などを考慮し，子供たちが学校に通う日には，登録ボランティアが毎日活動することを目指して目標値を設定した。	2,600 人 （平成 26 年度実績）	3,000 人

施策の方向性

◇　「睦沢町教育の日」を制定し，睦沢町全体で教育に取り組む気運を高めます。

◇　保護者と教職員が連携して進めるＰＴＡなどの活動を支援します。

◇　ボランティアの活動の充実を図るとともに，放課後や週末などの教育支援活動を支援します。（再掲）

◇　青少年の健全育成の取り組みや青少年団体などの活動を支援するとともに，次世代のリーダーを育成します。

◇　学校・家庭・地域・民間団体などと連携し，有害環境から子供を守ります。

主な取組

◇　「睦沢町教育の日」の条例を制定し，学校公開などの取り組みを通じて，教育に対する町民の理解を深め，関心を高めます。

◇　こども園・小中学校のＰＴＡが実施する子供たちの安全を確保する「こども１１０ばん」や子供たちの育成に関する研修会などの活動を支援します。

◇　睦沢町学校支援地域本部のもと，地域コーディネーターを中心に，「学習支援ボランティア」「防犯ボランティア」「読み聞かせボランティア」などの活動を通じて，学校における学習活動，安全確保，環境整備などのボランティアとして，保護者や地域住民の参加を一層促し，学校・家庭・地域が一体となった子供の育成を推進します。（再掲）

◇　公民館や小学校の空き教室などを活用した，子供たちの安心・安全な居場所の整備と放課後や週末などに地域住民の参画を得た放課後子供教室（むつざわアフタースクール）の拡充を図ります。（再掲）

◇　公民館に設置した「子どもたちの学習コーナー（地域ルーム）」の整備を充実させ，広報等により周知を図ります。

◇　大学・ＮＰＯなどと連携する事業や各種体験塾・講座，青少年教育を支援します。

◇　青少年相談員や子ども会との協働により，各種体験塾（キッズキャンプ・サマーキャンプ・雪国あそび隊）などを開催し，青少年の健全育成に努めます。また，町の次代を担う指導者を育成します。

◇　メディア（インターネット・スマホ等）上の有害情報や社会の有害環境から子供たちを守る体制を，関係機関や企業などと連携して整備するとともに，児童生徒が自らの意志で有害情報に接しないように指導し，保護者や関係者への啓発活動を実施します。

〔防犯ボランティアの活動の様子〕